【学校教育目標】
進んで学習しよう
自他を大切にしよう
責任を果たそう

西中だより

令和８年11月17日発行
青梅市立西中学校
学校だより第７号
校長　田中　暁

啐啄同時（そったくどうじ）

校長　田中　暁

日頃から、本校の教育活動へのご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

現在、生徒たちは、１２月の青梅学発表会に向け、総合的な学習の時間に取り組んでいます。１年生は青梅市周辺の校外学習、２年生は職場体験、３年生は京都・奈良修学旅行についてまとめ、学んだことや考えたことを発表していきます。後日案内も配布させていただきますので、ぜひ御参観いただければ幸いです。

さて、表題の「啐啄同時（そったくどうじ）」とは、ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、啐（そつ）とは雛（ひな）が卵からかえろうとして、殻の中からコツコツとつついたり鳴いたりすること。啄（たく）とはその音を聞き分けた親鳥が、外側から卵の殻をピシャリとつついて、雛の誕生を助けてやる様子を言い、啐と啄の両方が一致して雛が生まれる「機を得て両者相応じる得難い好機」のことを「啐啄同時」と言うそうです。

親鳥が「啄」のタイミングを誤ると、中の雛鳥の命は危うくなります。早くてもいけない、遅くてもいけない、「啐」と「啄」は「同時」でなければならないのです。この雛鳥と親鳥の関係は、子供と保護者・教師の関係にも当てはまるのではないでしょうか。

子供を教育する時、ほめたり、叱ったりすることは、どちらも欠かせません。しかし、そのタイミングを逸したり、間違えたりすると、教育効果は薄く、返って子供を傷つけたり、大人への不信感を募らせたりすることもあります。子供は、ほめられるべき時にほめられ、叱られるべき時に叱られることによって成長します。まさしく「啐啄同時」が大切なのです。

私たち大人が、深い愛情をもって子供を理解することに努め、適切な指導をする時、指導される側と指導する側の気持ちが一つになり、子供は確実な成長を遂げていきます。これこそが、「啐」と「啄」が「同時」に行われている状態なのだと思います。

この時、保護者と教師の「啄」を揃えることはとても重要です。これは、両者が共に子供たちの豊かな成長を願い、人間が生きていく上で大切なことをどの子供に対しても同じように指導することを意味します。結局これが、一人一人の子供の幸せにつながるのだと私は信じています。

１２月には、全学年で三者面談を行います。保護者の皆様と一緒に、安全・安心な学校づくりの実現に向けて進めるよう今後も努力を重ねて参ります。引き続き、ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

修学旅行を終えて

３学年主任　〇〇〇〇

１０月１２日（月）～１４日（水）の３日間、３年生の最後にして最大の行事、修学旅行で奈良・京都方面へ行ってきました。奈良では東大寺（奈良公園）、薬師寺を全員で見学し、京都では班ごとにコースを作成し見学地をめぐりました。宿舎でのレクリエーションも大いに盛り上がりました。班行動や宿泊など、学校とは異なる環境で仲間の新たな一面も見付けられたのではないでしょうか。





～生徒アンケートより～

・清水寺や伏見稲荷は建物からとても歴史を感じ今ではあまりないような構造がとてもすごかったです。祇園の街も青梅ではないような日本らしさ、人も京都ならではの人が多く文化を感じることができました。
・とにかく日本人より外国人が多すぎる！！！ 日本語よりも英語や韓国語のほうをこの３日間でめちゃ聞きました！！
・班行動をする中で互いに助け合っていたので、新しい経験の無い場所では協力し合うことが大切だと思った。また、その中で自然に仲間との絆が深まったと思う。

セーフティ教室（スケアードストレート）を終えて

生活指導主任　〇〇〇〇

本校では、交通安全に対する意識を高め、交通事故の危険性について理解を深めることを目的として、スタントマンによる交通事故の再現を取り入れたセーフティ教室を実施しました。

当日は、実際の交通事故を想定したデモンストレーションを通して、交通ルールを守ることの大切さや、身近に潜む危険について学びました。事故の様子を目の前で見ることで、交通事故が一瞬の不注意によって起こることや、事故が自分自身や周囲の人々に大きな影響を及ぼすことを実感する機会となりました。

今回のセーフティ教室で学んだことを日々の生活に生かし、自転車の安全な利用や道路の正しい通行など、一人ひとりが交通ルールを意識して行動できることを願っています。

ご家庭でも、この機会に交通安全について話し合い、安全に気を付けて生活することの大切さを改めて確認していただければと思います。





第１学年校外学習（地域調査）を終えて

１学年主任　〇〇〇〇

「自分たちのまちを、自分たちの足で調べる。」１０月２３日（金）、１年生が青梅・西多摩地区で校外学習を行いました。９月から班ごとに「歴史」「観光」「自然」などの研究テーマを決め、見学先や電車の時刻、昼食場所まで自分たちで計画してきました。当日は５～６人の班で福生駅から奥多摩駅の区間を巡り、施設の方にインタビューをしたり、写真やメモで記録を取ったりしました。地図と時計を確認しながら声を掛け合う姿から、一人一人が役割に責任をもって行動していることが伝わってきました。今後は学んだことをポスターにまとめ、自分たちにとっての「青梅の魅力」を発表します。ご協力いただいた地域の皆様、ありがとうございました。





第２学年職場体験体験を終えて

２学年担任　〇〇〇〇

１０月２７日（火）から２９日（木）までの３日間、職場体験を実施しました。生徒たちはそれぞれの事業所で、普段の学校生活では経験できない仕事の内容や大変さ、働くことの責任や喜びなど、多くのことを学ぶことができました。また、事業所の方々からは、生徒たちの一生懸命に取り組む姿勢や礼儀正しさについて、お褒めの言葉をいただきました。今回の経験を通して得た学びや気付き、感謝の気持ちを、今後の学校生活や将来の進路選択に生かしてほしいと思います。

～ 生徒感想 ～

職場体験を通して、一人ひとりの個性を尊重し、相手の目線に立って関わることの大切さを学びました。初めは小さな子供たちと接することに不安もありましたが、子供たちの笑顔や先生方の温かい声かけに支えられ、楽しく活動することができました。また、仕事の大変さや責任を知るとともに、保育の仕事への興味も深まりました。今回の経験を生かし、将来は多くの人の笑顔を増やせる仕事に就きたいです。









道徳地区公開講座を終えて

道徳教育推進担当　〇〇〇〇

今回の道徳授業地区公開講座では、２校時に各学級で「自主、自律、自由と責任」「遵法精神、公徳心」などをテーマに道徳の授業を行い、３校時には弁護士法人まちだ・さがみ総合法律事務所の汐田様、半田様を講師にお迎えし、「少年事件と少年非行を学ぶ」をテーマに全校講演会を実施しました。

各学級の授業では、自分の行動や判断に責任をもつこと、社会のルールを守ることの大切さについて考えました。その後の講演会では、少年事件や少年非行の実態、少年法の仕組みなどについて、具体的な事例を交えながらお話しいただきました。SNS やインターネットが身近な存在となり、思いがけず犯罪に巻き込まれたり、自らが加害者になったりする可能性もある現代です。今回の学びを通して、生徒たちには、正しい知識を身に付けるだけでなく、自分で考え、判断し、責任ある行動を選択する力を大切にしてほしいと思います。

消防体験を実施しました

副校長　加藤　誠

１１月７日（土）青梅市消防団第４分団・第５分団の皆さまのご協力により、第２学年で消防体験を実施しました。生徒たちは、防火服を着用し、団員の方々のご指導のもと放水体験や消防車の様々な設備と機能について学びました。「将来は、自分も消防団に入って、地域を守ります。」という生徒たちがいて、とても頼もしく感じました。１０月３０日(金)の AED 救命講習会、災害救助犬講習会に続き、万一を想定した貴重な学習となりました。





部活動実績報告

吹奏楽部

１０月１７日（土）秋晴れの中、伝統ある下山八幡神社例大祭のステージで演奏させていただきました。多くの地域の皆さまに聞いていただきありがとうございました。



同窓会より寄贈いただきました

4月20日に本校で特別授業をしてくださった本校卒業生でJリーガーの中野就斗選手(平成27年度卒・サンフレッチェ広島)が、この9月よりサッカー日本代表に選出されています。4月に「日本代表になりますか？」という生徒の質問に、力強く「なります。」とコメントしていた姿が思い出されます。11月14日(土)のシンガポールでのブラジル戦でも大活躍でした。これからの国内外での活躍をみんなで応援しましょう。

西中同窓会より応援垂幕を寄贈いただきました。校舎壁面に掲示しておりますので、近くをお通りの際はぜひご覧になってください。



11　月　の　目　標

- **落ち着いて学習に取り組もう**
- **下校時間を守ろう**

青梅市立西中学校
〒198-0063 青梅市梅郷 6-1460-1
【TEL】0428-76-0114　【FAX】0428-76-2394
平日７：４５～１６：４５まで
※上記以外留守番電話対応
【HP】https://www.city.ome.tokyo.jp/school/nishi-j/